神海丸通信③

専攻科

東日本大震災被災地

石巻を訪ねて

専攻科２年生Ｏ・Ｔ
僕は初めて石巻の状況を見て、震災から６年間経った今でも、瓦礫の山など災害の痕がたくさんあることに驚きました。テレビで見る被災地は復興しつつあるのに映らない部分ではこんなに酷い状況なのかと。

専攻科２年生Ｍ・Ｋ
港やドックでは復興が進んでいる印象を受けましたが、実際町並みを見て周ると予想していたよりもまだまだ道半ばだと感じました。仮設の橋があったり、地盤沈下で下がった土地のかさ上げ工事がいたるところで行われていました。

専攻科２年生Ｔ・Ｙ
石巻の日和山に登り、河口や市街地を一望しました。そこには地震・津波が来る前の写真が展示してあり、建物が殆ど流失していることがわかりました。

専攻科２年生Ｏ・Ｓ
６年前の三月十一日に震災が発生し、石巻は波高７ｍの津波に襲われました。津波の恐怖で故郷に帰れない人々、今も仮設住宅で生活している方々の事を思うと胸が痛みます。

青い部分まで津波到達

専攻科２年生Ｈ・Ｔ
被災地の話を聞いたり、実際に目で見たり、関わるほどに想いを言葉にするのが難しくなっていきます。ほんの少しですが、関わった人間として、目をそらさずに復興できたと言える日まで全力で関わり続けるつもりです。

神海丸を被災後、一番船で造ったヤマニシ造船所を訪問研修

専攻科１年生
ヤマニシ造船所の震災直後の写真を見せていただきました。分厚い鉄で出来た扉が津波によって破壊されており、津波の破壊力に驚きました。

専攻科１年生
ぎょう鉄の作業は鉄板をガスバーナーの炎で熱し、水で急激に冷やすことで鉄板を曲げる匠の技でした。

地域研修「釧路」

専攻科２年生ＫＫ
ドライドックは１号船台から３号船台まであり、神海丸は２号船台で造られました。その長さは１７０ｍ。

専攻科１年生Ｓ・Ｈ
造船所の敷地にも汚泥、瓦礫、車などが多量に流れ込み、再スタートするまでに３年かかったそうです。

専攻科１年生Ｕ・Ｋ
作業員の保護具着用、蓋つきのゴミ箱、クレーン等には危険を知らせる赤色灯、各所に安全に関する掲示物、安全通行帯を白線で表示。安全に作業する意識を持つ大切さを学びました

五月二十七日寄港地である釧路の地域研修を行った。摩周湖→硫黄山→阿寒湖→アイヌコタン→釧路湿原というコースで実施。摩周湖は霧の摩周湖とも言われているが、神秘な風情をたたえる姿を見せてくれた。硫黄山は活火山で、硫黄の匂いを強烈に振りまきながら、蒸気をいたる所から噴き出していた。生徒の多くが温泉卵を食していた。阿寒湖ではは昼食を摂ったが、阿寒湖のわかさぎの天ぷらが美味でした。アイヌコタンではアイヌ民族に伝わる民俗音楽や舞踊を鑑賞した。生徒達は舞台で、アイヌ舞踊を体験した。釧路湿原では幻の淡水魚いとうを見ることができた。

ジンギスカン味のキャラメル

どんな味・・・？

北海道ではエゾシカの肉をもみじと呼び、結構道民の食卓に上がっているという。脂身が少なく、味は淡泊で、肉質も柔らかいという。近年エゾシカの生息数が増加しているため、捕獲頭数を増やしているようだ。バスガイドの林さんから、ジンギスカン味のキャラメルがあると聞いた。キャラメルたまねぎ、ひつじ、たれ、その他複雑な味と臭いが混じっているとのこと。

阿寒湖のわかさぎ